



## 南京都少年野球大会規則と重要事項

1. 抽選会や代表者会議で説明された内容、決定された事項はチーム全員に徹底する事。
2. 競技規則は、**2023**年度版全日本軟式野球連盟『公認野球規則』、『競技者必携』及び当連盟の「大会特別規則と重要事項」を適用。(但し投球制限については、下記による)
3. 選手の登録は、20名以内(但し、入賞メダルは、13個以内とし追加については有料とする。)とする。また、指導者の登録は、代表1人、監督1人、コーチ2人、スコアラー1人及びトレーナー(有資格者)の最大6名とする。
4. ベンチは、組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチには、いずれも登録済選手・指導者が入る事。
5. 選手並びに監督、コーチは、必ず同色・同形・同意匠のユニフォーム(但し、すそ幅の広い・ストレートタイプのユニフォームのパンツは、着用禁止)と帽子を着用し背番号を付ける。アンダーシャツ、ストッキングは、同色で統一し、スコアラーも同一の帽子を着用する事。(ゴム底スパイクについては同一のものでなくても可とする)背番号は、選手は、0～99番(但し、主将は10番)、コーチは、28、29番、監督は、30番とする。
6. 監督の不在の時は、コーチの28番又は29番が監督代行し、必ず事前に球審及びコート責任者に届ける事(打順表(メンバー表)にも代行者名を記入)。(但し監督、コーチが不在でも大会進行上必要と連盟が認めた場合はその試合に限り代理を立てる事を認める。)
7. 降雨、雷による中止決定は、大会本部が行う。但し、小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は、試合を行う。尚、雷時は、安全を優先し、中断を繰り返す事もある。
8. 次試合のチームは試合予定開始時刻30分前までに集合する事。直ちに当連盟専用の打順表(メンバー表)を受領し、登録選手数内で記入作成し(氏名・フルネーム、フリガナ、登録選手全員を記入)、3枚共本部に提出。試合開始挨拶前に球審の指示のもとに、ホームベース後方に監督・主将にグラウンドルールを説明し攻守を決定する。
9. 試合開始予定時刻前でも前の試合が早く終了した時には、次の試合を開始する。
10. 試合開始予定時刻になっても、球場に来ないチームは、原則として棄権とみなす(9名選手がそろってない場合も)。遅れる場合は、必ず、事前に会場責任者まで連絡を入れる事。
11. 当連盟の試合規定回数は6回とする。但し、時間は1時間20分以降には新しいイニングに入らない。
  - (1) . コールドゲームの採用。 3回を終わって15点差、4回10点差、5回以降7点差がある場合は、コールドゲームとする。但し、決勝戦には、コールドゲームは、採用しない。
  - (2) . 抽選の採用。 6回を終了又は、規定時間内で勝敗が決しない時は、最終メンバー9名で、ポジション順に整列し、先攻、後攻の順にカード(勝ち○、負け×の数で)を引き抽選で決める。
  - (3) 準々決勝戦より6回及び1時間20分を終了して勝敗が決しない時は、下記①②項の規定に基づきタイブレーク制を採用し【特別延長戦】で勝敗を決定する。
    - ①準々及び準決勝戦は、6回もしくは1時間20分を経過し同点の時に行う。タイブレークは2イニングまでとし、決着がつかない時は抽選で勝敗を決定する。
    - ②決勝戦は、6回もしくは1時間20分を経過し同点の時に行う。決勝戦は勝敗が決するまでタイブレークを行う。又、いずれも勝敗の決した回で終了する。

### 当連盟特別規則 【タイブレーク・特別延長戦】

- 1、継続攻守順で、無死一・二塁の継続打順で行う。 2、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁走者は順次前の打者が走者に入る。 3、同じ回の終了で点差がついた時点で終了とする。

12. 試合中に降雨、暗黒等により、試合を中止した場合、当連盟では、時間 50 分経過、又は、4 回試合を経過していれば試合は成立したとして終了する事がある。尚、勝敗は、最終の均等回の得点を持って決定する。それ以外は、後日初回よりの再試合を行う。(継続試合は、行わない)
13. 捕手は、公認のマスク(スロートガード付き)、ヘルメット、プロテクター、レガース、ファウルカップを着用する。インングの投球練習にも、必ず捕手・代理捕手は、マスクを着用する事。
14. 投手は、投手板に触れて捕手からのサインを受ける事。打者は、ヘルメットを着用し、打者席に入って速やかに打撃姿勢を取る。サインは打者席内で受ける事。次打者は、必ず次打席(素振りは、禁止)に膝を落として控える。
15. 守備側からのタイム中に投手は、捕手を相手に投球練習をしてはならない。
16. 監督、コーチ、選手は、タイムを要求せずにみだりにベンチを出てはならない。また、タイムは、要求した時でなく審判が認めた時である(尚、作戦タイムは、6 回で守備、攻撃共 3 回迄)。
17. 抗議できるのは、監督と当該選手の内 1 名とする。但し、審判の裁定が規則の適用を誤って下されたと疑いがあつた時のみ行う事が出来る。また、抗議は 1 分以内とする。
18. ベースコーチボックスには、必ず攻撃前のミーティングに加わらずワンモアピッチのコール後直ちに 1、3 塁側共ヘルメット着用して入る事。
19. 競技技術並びにマナー向上と、試合のスピード化を図り少年らしい態度を心掛ける。また、どんな方法であろうとも相手チームや父兄応援団に対しても悪口、暴言を吐く事を禁ずる。その責務は、全て所属チームが負うものとする。
20. 危険なプレイ(捕手のホームベース付近での危険な走塁妨害、走者の足を高く上げてのスライディング等)を禁ずる。
21. 変化球は、子供の健康上、故意・くせを問わず一切禁止。(審判判断によって交代を指示する事もある)。
22. バッターボックスから片足を出してベンチ等からのサインを見ない。遅延行為として注意する。
23. 選手の追加、変更、背番号の移動は、当大会登録表提出後チーム第一試合開始前までは認めるがその後大会終了迄出来ない。
24. 大会使用球は、**春・夏：ナガセケンコー**J 号球、**秋・決勝大会：ダイワマルエス**J 号球とする。
25. 捕手の用具(マスクは SG マーク付き)、バット(金属)等及び野球用具は、J SBB 公認である事。
26. スポーツ障害保険に必ず各チーム加入する事。
27. 大会に於いて不正を行ったチームに対して、連盟の規定に従い処置を行う事がある。

## 28. 東京都少年野球連盟 特別規則(けが等防止)

ファウルボール区域で飛球を捕球後、其のままボールデッドラインを越えるとファウルボールとする。

29. 選手不足による A 部と B 部選手の重複登録によるチーム編成及び監督・コーチ・スコアラーの重複登録を認める。
30. 選手不足による連合・合同チーム編成を認める。尚、混成ユニフォームを認めるが背番号は重複しない事。
31. 投手の投球制限 投手の投球制限は 1 日 5 年・6 年は 70 球、4 年以下は 60 球までとする。(4 年生以下の選手は打順表に○をつける。) 試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか攻守交代まで投球できる。  
タイブレイク【特別延長戦】になった場合、1 日の規定投球数以内で投球できる。牽制球や送球と見られるものは投球数とはしない。又、ボールにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
32. その他
  - (1) 時間内に 6 回まで試合が出来るように両チームが協力して行う事。
    - ・攻守交替は、投手も駆け足で行い、捕手は事前に用具装着と代理捕手を準備しておく事。
    - ・捕手は、投球を受けたら早くその場所から投手に返球する事(毎回、前に移動して返球しない)。
    - ・投手は捕手から返球を受けたら速やかに投球姿勢に入る事(毎回、プレートや付近を直さない)。
  - (2) 競技規則は年度の途中でもあっても審判部が必要と判断した場合、理事会に諮り変更する場合がある。

(例) 公認野球規則の適用時期

- (3) 本部、支部とも6～8月の期間は熱中症警戒アラートで指数3.3以上が予報で出た場合は中止とする。  
但し、時間などの詳細は大会開催前に決定する。

以上